

# 第46号

本誌は町内会費で作成されております。皆様からの情報をお待ちしております。

# 鵜沼橋町内会だより

**特殊詐欺に注意!! 藤沢警察署 ☎ 24-0110 (24時間0h110番)**

発行人：会長 萩野谷信二 ☎ 50-7050 mail: ohagi\_dakar@yahoo.co.jp 編集：編集部

自宅などで安全が確保できる場合には  
**在宅避難**



必要なものを  
備蓄しておきましょう。

親族や友人の家に避難できる場合には  
**自主避難**



避難指示などを待たず、  
早めに行動しましょう。

急な大雨や冠水で外に出るのが危険な場合には  
**垂直避難**



自宅の2階や  
近くの頑丈な建物の  
上層階に避難しましょう。

## 防災特集号 在宅避難の勧め

### 防災

私達は何時、災害に合うのか分かりません。いざという時の為に、日頃からの備えが大切になります。自助（自分で自分を守る事）・共助（家族や隣近所で助け合う事、近助）・公助（市や警察・消防などの公の機関による助の事）という言葉があります。発災後、直ぐに公助が開始される訳ではありませんし、避難所（鵜沼中等）が開設をされていても、全ての町内会会員の方を収容するキャパシティもありません。加えて新型コロナウイルス等の感染症対策も全ての避難所が万全とまではなっておりません。ご自宅が倒壊や損壊等の影響を受けてい

**自助**

自分の身は自分で守る



**共助**

自分たちのまちは自分たちで守る



地域の防災力を高めよう

**公助**

市や府、国、防災関係機関が住民等を災害から守る



ない、安全な状況であれば「在宅避難」を推奨致します。公助が開始されるまでの間、ライフラインが遮断をされていてもご自宅で過ごせる様な備えが必要になりますので、防災用品の備えを各自（自助）でお願いを致します。

### 携帯トイレ

安価で役立つ

排泄は我慢できない。しかし、自宅の水洗トイレは使えない。避難所では、仮設トイレがすぐに来なくて、トイレの使用が困難な状況にある。こんな時に役立つのが、「携帯トイレ」の常備と災害時の即時設置です。この「携帯トイレ」は使用不可となった洋式便器等に設置して使用する便袋です。食料・飲料・安全キットに加えて、自宅での防災用品に是非この「携帯トイレ」を加えて頂く様、お勧めします。



「鵜沼橋町内会だより」は、鵜沼橋町内会のホームページでもご覧になれます。QRコードの上記ドから。

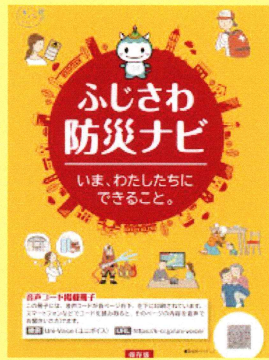
「ハザードマップ」とは、一般的に「自然災害による被害の軽減や防災対策に使用する目的で、被災想定区域や避難場所・避難経路などの防災関係施設の位置などを表示した地図」とされています。

『ふじさわ防災ナビ』の他、藤沢市のホームページでは、防災に関する次の地図を見ることが出来ます。

地震・揺れやすさ・液化化危険度マップ、地域危険度マップ、津波・津波ハザードマップ、

### 防災豆知識その④

#### ハザードマップ



津波浸水想定図 土砂災害・洪水・土砂災害・洪水ハザードマップ これらのハザードマップを見て、お住いの地域にはどのような災害が想定されているのか、参考にされてはいかがでしょうか。

### 自宅で備える防災品

#### 何をどのくらい？

自宅で常備しておきたい防災品としては、食料品・缶詰、レトルト食品、日持ちのする根菜類、芋類等、食事は避難所での心の負担を軽減する事や消費・賞味期限の確認の意味もありますので普段から食べ慣れておく、ローリングストック（循環備蓄）を行いましょう。

飲料水・1人1日500ml×3本 簡易トイレ・1人あたり1日5回分等を家族の人数分×最低3日分、可能であれば7日分の備蓄をしておきましょう。

その他・貴重品入れ・持病の薬・お薬手帳・懐中電灯・軍手・マスク・消毒液・ビニール袋・救急セット・タオル、女性であれば生理用品やストッキング

## 鶴沼橋の防災

### 『ふじさわ防災ナビ』の活用

昨年7月に藤沢市が改定をし、全世帯に配布をされました『ふじさわ防災ナビ』によりまずと、橋町内会地域は津波や大規模な浸水被害等の想定エリアには

含まれていません。『ふじさわ防災ナビ』にはその他の様々な災害時に役立つ備蓄品や、鶴中以外の避難所、藤沢市の浸水想定範囲や、津波想定エリア等

も明記されており、是非一度ご家族で読んでいただき、各家庭で何をどの位備蓄し、家のどこに置いておくか、そして発災時の待ち合わせ場所をどこにしておくか（特に小さいお子様）等の具体的な話をしていただく事をお勧め致します。

### ふじさわ探訪④

#### 大庭御厨

鶴沼は、平安時代になると伊勢神宮の神領・大庭御厨（おおばみくりや）に属していました。大庭御厨は、相模国高座郡の南部（現在の茅ヶ崎市、藤沢市）にあった寄進型荘園の一つで、境界は、東は俣野川（藤沢市の境川）、西は神郷（寒川）、南は海、北は大牧崎でし

た。天養元年（1144）、鶴沼郷は鎌倉郡のなかにあるとする鎌倉の源義朝（頼朝の父）が、御厨の荘官や伊勢神宮側と争乱を起こし、皇大神宮では神人の死傷や略奪などの被害を受けました。有力御家人和田氏の反乱（和田合戦）の際、長らく大庭御厨の下司であった大庭氏の系統は滅亡しました。その後、三浦氏の所領となり、宝治元年（1247）に起きた宝治合戦により三浦氏が滅亡。北条得宗家の所領となったものと思われま

